

# 笑顔をつなぐおもちゃ図書館

おもちゃの図書館全国連絡会 代表 こいずみ やすよ 小泉 康代

## 1. おもちゃ図書館とは

おもちゃ図書館はアメリカの大恐慌時代におもちゃを買ってもらえない子どもたちのためのトイローンシステムとしてロスアンゼルスで始まりました。日本では1982年頃から全国的に広まったボランティア活動です。障がいのある子供や親御さんが気兼ねなく遊べる場所として始まり、現在は障がいのある子もいない子も、ともに育つノーマライゼーションの心を育む場所となっています。子どもたちは、あそびを通じて色や形、音などを感覚をとおして知ることが出来たり、友達や知り合いと共同の時間を過ごすことで、人との関わり方を育む大切な時間を持つことができます。おもちゃの図書館ではおもちゃを貸し出すことによって、障害のあるお子さんが遊びたいおもちゃに出会えること、親御さんが試したいおもちゃで遊んでみる事が出来ます。障がいの有無にかかわらず、成長によって興味などが変化し、家の中におもちゃが山積みになることもあるのではないのでしょうか。図書館と同じで、本ではなく、沢山のおもちゃから、気に入ったおもちゃを選び借りることが出来る場所です。

## 2. おもちゃの図書館全国連絡会

現在、当連絡会に登録しているおもちゃ図書館は444館で、いろいろな条件で登録できない館を含めると、全国

で約500館が活動しています。全国連絡会はおもちゃ図書館のネットワークとして、情報提供、Toyらいびらりあん養成講座（ボランティアリーダー）の開催、おもちゃの寄贈、開館支援、相談事業などを行っております。

## 3. 世界のおもちゃ図書館

世界各国でもおもちゃ図書館活動しており、1978年イギリスで第1回おもちゃの図書館国際会議が開催され、その後3年ごとに開催し、情報交換と交流をしています。1999年には東京で第8回の国際会議が開催され、日本を含む22ヶ国から総勢755名の参加がありました。その際あそびの大切さや意義を伝えるべく「WORLD PLAY DAY」を提唱、2001年国際トイライブラリー協会が、5月28日をワールドプレイデイ「世界あそびの日」と決定しました。今年2013年6月13日～15日は第4回アジア会議が東京で「遊びは生きる力」というテーマで開催されました。会場は主にオリンピック記念青少年総合センターです。15日はワールドプレイデイのイベントで体育館を使ってさまざまな楽しい遊びを企画しました。

## 4. 地域の中で

おもちゃ図書館は、おもちゃという優しく温かいツールを通して、障がいの有

無を越え、世代を超え、人々の集える場所になっております。子育て支援として今までの経験を生かして活躍している所も多くあります。他のボランティア団体ともネットワークを組んでおり、特におもちゃ病院とは、連携をとっている所が多くあります。また、昨今の悲しい出来事の孤独死・孤立死などがなくなるように願って、地域の中のつながりを大切にしたい活動をしています。

---

## 5. 東日本大震災支援活動

---

東日本大震災の支援活動として、被災したたくさん仲間たちに支援物資を届け、その後は宮城県南三陸町や福島県内で移動おもちゃ図書館を開催しております。移動おもちゃ図書館とは、各地に車などでおもちゃを運び、おもちゃで遊ぶスペースを作り、ボランティアと一緒に遊びます。たくさんのおもちゃを見ると、老若男女を問わず「ワァッ」と嬉しそうな声が響き、おもちゃを通じて自然と笑顔が連鎖していました。おもちゃは単に遊具でなく、人と人をつなぐコミュニケーションの道具であり、それが障がいについても、自然と理解とを生み出していることがあります。障がいのあるお子さんたちは、避難場所での生活は大変で、保護者の方々も苦勞されました。周りの協力で何とか過ごし、そこからお子さんが成長した例(トイレの自立等々)



宮城県南三陸さんさん商店街

もありました。また、仮設住宅ではお隣の高齢の方が、障がいのお子さんのお世話をして下さり、反対にそのお子さんが高齢の方の心を和ませているようでもあります。

---

## 6. これからも、おもちゃ図書館

---

おもちゃ図書館には手作りのおもちゃがいっぱいあり、布で作られた絵本やおもちゃは、手触りも温かく壊れても直せます。木や紙や牛乳パック、ペットボトルなどを利用して作ったおもちゃもたくさんあります。手作りおもちゃも、市販されているおもちゃも、ボランティアの手で子供たちの為に工夫されていて思わぬ喜びが生まれます。楽しく遊んでいるうちに、できなかったことが出来てしまうことを、おもちゃ図書館では「嬉しいおまけ」と呼んでおり「嬉しいおまけ」にどれだけ感動を頂いたかわかりません。

おもちゃを貸し出すことで、あきたら簡単に捨ててしまうのではなく、愛情と手を加えられた、自分の気に入ったおもちゃで遊ぶことから、資源の循環と同時に、心とこころの循環が生まれる社会がどれだけ大切かを、大震災を体験し、自殺の多い社会のなかで、たくさんの方が肌で感じられていると思います。これからも、おもちゃ図書館活動で、たくさん笑顔をつないで参りたいと思います。



福島県での移動おもちゃ図書館活動